

令和7年度
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
年度計画(案)(概要)

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

第四期中期計画（令和5年度～令和9年度）の概要

- 三つの重点医療に加え、高齢者糖尿病を新たに重点医療として位置付け、**フレイルの視点をより一層重視した早期からの「予防し、治し支える医療」**を「高齢者医療モデル」として確立・普及
- 新興・再興感染症を踏まえた感染症対策や、首都直下型地震等に備え**災害医療の取組**を強化
- **老化のメカニズムや老化制御**などの自然科学的な研究並びに疫学調査や社会調査などによる社会科学的な研究を推進
- 病院と研究所が一体となり、**認知症未来社会創造センター、フレイル予防センター、スマートウォッチ等のデジタル機器を用いた健康づくりに関する研究プロジェクト**の取組を推進
- **DXを積極的に推進し**、研究、経営基盤強化を図り、財務内容の改善を実施

令和7年度計画のポイント

～各部門を横断的に結合し、医療と研究の一体化を推進～

病院部門

- **四大重点医療**を中心として、フレイルの視点をより一層重視した「高齢者医療モデル」の確立・普及に向けて、高齢者の特性に配慮した適切な医療を提供
- **地域医療支援病院**として、紹介患者に対する医療提供を推進するとともに、一層の**救急患者の受入れ**を通じて、地域における効率的な医療提供体制を構築

研究部門

- 自然科学と社会科学の両分野の研究の推進と社会還元
- 病院部門と連携した**IRIDE**の第2期として、取組の一層の推進
- **バイオバンクの機能や整備の在り方について検討**を加速させるとともに、収集した生体試料を有効に活用できる体制を検討

経営部門

- 新たな施設基準の取得等を通じた**積極的な収入確保並びにコスト削減**
- AI問診、RPAのツールなどを活用した**DXの推進**
- 健康長寿医療研修センターが中心となり、センター及び地域の医療従事者などの**専門人材の育成を推進**

①—1 高齢者の健康長寿を支える医療の提供・普及

四大重点医療（血管病、高齢者がん、認知症、高齢者糖尿病）をはじめとした高齢者の特性に配慮した医療の提供を行い、健康長寿の実現に取り組む

◆血管病医療

- ・ **拡大したSCU病床を活用**し、脳卒中患者などに対して、各診療科で連携しながら基礎疾患、他血管疾患の有無を考慮した医療を提供するとともに、脳卒中におけるフレイルへの影響を考慮し、機能回復、機能温存を図る

■ 令和7年度目標値
ICU稼働率 65%
SCU稼働率 90%

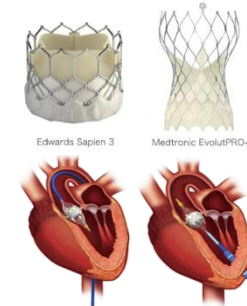
- ・ 脳血管疾患における機能回復、機能温存に向けた**早期リハビリテーションを実施**するとともに、**ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の実施**や**退院支援**など、脳血管障害管理や退院に関する調整・ケア移行を推進
- ・ 重症心不全患者に対し、経カテーテル的大動脈弁治療（TAVI）、補助循環用ポンプカテーテル（Impella）による高度な治療を実施
- ・ 不整脈に対する高周波心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）やペースメーカー治療を実施
- ・ **心不全看護外来**（令和6年度開設）において、心不全の急性増悪を予防するとともに、地域連携を推進し、心不全患者の望む暮らしの支援の充実を図る

~R5.11	R5.12	R6.2	R6.6	R6.7
6床	8床	9床	12床	15床

【SCU病床数の推移】



【SCU病床】



【TAVI】



【カテーテルアブレーション】



【心不全看護外来】

①ー2 高齢者の健康長寿を支える医療の提供・普及

◆高齢者がん医療

- ・4K液晶モニターによる高精細な画像を活用し、明るい視野の下、繊細でより正確な手術を施行
- ・肺がんの外科診療では、フレイル評価を含む包括的な全身精査を行った上で、**ロボット支援下手術**、胸腔鏡手術を駆使して低侵襲な治療を提供
- ・外来腫瘍化学療法を推進するほか、放射線治療科と各診療科が連携し、乳がん、消化器がん、泌尿器疾患などの対象疾患に対し、**治療・緩和双方からのアプローチで適切な放射線治療を実践**

■令和7年度目標値

画像誘導放射線治療 (IGRT) 150例
強度変調放射線治療 (IMRT) 20例
定位放射線治療 7例

- ・各診療科において、専門・認定看護師、認定薬剤師、MSW等と連携するとともに、緩和ケアチームやがん相談支援センターも活用することで、がん患者及びその家族に対し適切な医療を提供

◆認知症医療

- ・**アルツハイマー病疾患修飾薬であるレカネマブ、ドナネマブの投与**を提供出来る体制を整備、拡充
- ・投与から半年が経過し、安全に投与を行っている患者については、連携医療機関において投与を継続

■令和7年度目標値

年間投与症例 90例

- ・認知症を合併した入院患者のリハビリテーションでは、身体能力の向上に加え、**認知機能や生活機能の改善**を目指した介入を推進
- ・**認知症疾患医療センター**として、**多職種チーム**が専門性を生かした受療相談や、連携医療機関からの紹介による**緊急入院対応**、地域連携機関の要請を受けて認知症高齢者を訪問する**アウトリーチ活動**を実施するなど、認知症医療・福祉へ貢献



【内視鏡システム（4K 3Dカメラ）】



【手術支援ロボット da Vinci】



【緩和ケア病棟の様子】



アルツハイマー病 新治療薬「レカネマブ」
患者への投与が始まる

【レカネマブ投与に関する報道】



【認知機能の改善を目指した
リハビリテーション】

①—3 高齢者の健康長寿を支える医療の提供・普及

◆高齢者糖尿病医療

- ・ **糖尿病看護外来**において、インスリンポンプやCGMなどの専門治療の実施や療養困難症例に対する治療を提供

■ 令和7年度目標値

糖尿病看護外来年間延べ患者数 1,100人

- ・ 退院後に介護保険サービスなどの社会資源が必要な患者については、**ケアマネジャーや訪問看護と適切な連携**を図る
- ・ 「東京都区西北部糖尿病医療連携推進検討会」基幹病院として、行政、医師会及び歯科医師会等と連携し、地域における糖尿病の重症化予防やフレイル予防の活動を強化
- ・ 「いたばし糖尿病多職種ネットワークの会」において、地域の他職種に対する講演会やワークショップを開催するなど、地域連携を推進



【isCGM
(間歇スキャン式)】

【rtCGM (リアルタイム)】



【糖尿病看護外来（フットケア）】



【「世界糖尿病デー」の取組】

◆高齢者の特性に配慮した医療

- ・ **白内障**を主体とする各種眼科疾患に関し、認知症を有する高齢者や様々な全身疾患を合併する患者についてもQOL、QOV(Quality of vision)を考慮し、積極的に手術治療を実施
- ・ 治療に到達していない潜在的な**水頭症**の症例が多いため、地域への啓蒙活動を行うとともに、地域医療機関と連携して治療を推進
- ・ **大腿骨近位部骨折に対する骨接合術・人工骨頭置換術、脊椎圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術**を積極的に行うとともに、**骨粗鬆症治療**を適切に行い二次骨折を予防
- ・ **低侵襲手術**を積極的に推進し、術後のQOL維持にも配慮することで、長期入院に伴うフレイルの悪化等の予防を目指す
- ・ 退院後の生活機能改善を目指したリハビリテーションの実施や、家族への介護指導、家庭の環境調整についての助言など、リハビリテーション療法士を含めた**多職種で退院支援を推進**



【眼科手術用顕微鏡】

②ー1 地域における公的医療機関としての取組

区西北部二次保健医療圏内の病院、診療所の後方支援体制の強化に向け、地域医療支援病院として、紹介患者に対する医療提供、救急医療によるかかりつけ医等の支援を通じて、効率的な医療提供体制を構築

◆救急医療

- ・ 急性大動脈スーパーネットワーク、CCUネットワーク、東京都脳卒中救急搬送体制を中心に、ICU/ CCU及びSCUを活用しながら積極的に脳・心血管疾患患者を受入れ
- ・ 脳梗塞超急性期患者に対する血栓溶解療法、経皮的血栓回収術の適応となる患者を積極的に受入れ

■ 令和7年度目標値
救急患者受入数 10,000人
救急車応需率 70%



【自院救急車】

救急患者受入れ強化に向けたセンターの取組

- ・ 令和6年度にセンター長を中心としたプロジェクト・チーム（稼働率80プロジェクト）を立ち上げ、全診療科で現状の検証を行うとともに、救急車の応需率70%以上を目指し、救急患者受入れ強化策を検討
- ・ 救急科を中心に救急当番体制を見直すとともに、救急隊や地域の医療機関との意見交換を通じて救急診療体制を改善
- ・ 循環器疾患、急性腹症等の外科症例、血管病に関する地域医療機関と専用のホットラインを開設、運用し、救急患者の受入を促進



【救急外来での患者受入】



「断らない救急」の実現と継続へ

②ー2 地域における公的医療機関としての取組

◆地域連携の推進

- ・医療機関への訪問や連携会議、研修会等を通じてセンターの連携医制度をPRし、**連携医療機関及び連携医との関係をさらに強化**

■令和7年度目標値
紹介率 75%
返送・逆紹介率 85%

- ・**地域医療連携システム**の受診予約可能診療科や大型医療機器の検査予約枠拡大に努めるとともに、連携医療機関へオンライン検査、診療科予約の利用促進に向けた訪問活動を強化
- ・地域の医療機関や介護施設等と緊密に連携し、入退院支援に関わる調整を図るなど、患者及び家族に対して**医療から介護まで切れ目のないサービスを提供**
- ・専門認定看護師連絡会にて地域施設・医療機関も対象とした「看護補助者向け看護ワークショップ」を開催し、地域の看護ケアの質向上を図る



【板橋区医師会・豊島病院・当センター三者合同連携の会】



【地域との連携懇親会】



【看護ワークショップの様相】

◆災害・感染症等の緊急事態への対応

- ・新型コロナウイルス感染症を含む新興・再興感染症の発生・拡大時などの緊急事態において、**感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく東京都との協定に基づき、最大限の協力を行う**
- ・板橋区と締結した災害時の緊急医療救護所設置に関する協定に基づき、区や関係機関と定期的な情報交換を実施
- ・災害時の事業継続能力を高めるためにBCP（事業継続計画）及び危機管理マニュアルに基づき、実践的な訓練を実施

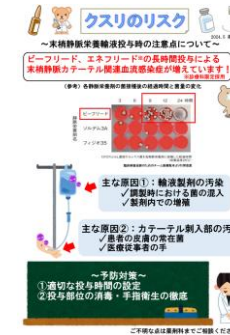


【板橋区合同大規模災害訓練】

③ 安心かつ信頼できる質の高い医療提供体制の確保

◆安全で質の高い医療の提供

- ・ **インシデント・アクシデントレポート**を活用し、医療現場の安全性を高めるとともに、報告事例の分析や改善策の検討を通じて再発防止策を策定し、医療従事者全体で共有
- ・ 6Rの確認などにより**医薬品の適正使用を徹底**し、薬剤関連の重大事故を防止
- ・ **患者誤認防止**に向け、事例分析による環境の改善とマニュアル遵守を徹底するとともに、患者の協力も得ながら取組を強化



【啓発活動
(医薬品適正使用)】



【医療安全強化ラウンドの様様】

タスクシフト/シェアに向けた取組

- ・ **診療看護師 (NP)** 取得者の診療科ローテーション研修を実施し、各科のニーズを把握して資格取得者を活用
- ・ 臨床工学技士が**ペースメーカー治療補助**や**血液浄化療法の穿刺等**に対応するほか、新たに手術室における内視鏡カメラ保持業務 (スコピスト) を習得し、手術に関与



【臨床工学技士による治療補助】



【看護師による特定行為の実践】

◆患者中心の医療、患者サービスの向上

- ・ 患者満足度調査やご意見箱の結果等を踏まえ、改善策の実施と効果検証を行うなど、患者満足度の向上に引き続き取組む
- ・ 新たに病棟や外来待合室等に**WiFi環境を整備**し、入院・外来患者の利便性の向上を図る

■令和7年度目標値

入院患者満足度	94%
外来患者満足度	89%

①—1 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

高齢者の健康維持・増進と自立した生活の継続のため、老化のメカニズムや老化制御などの自然科学的な研究及び疫学調査や社会調査などによる社会科学的研究を推進

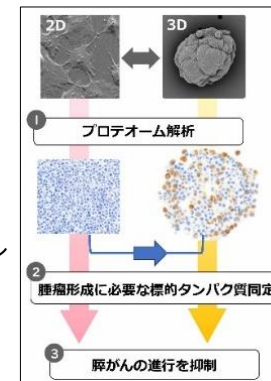
◆高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究—1

○ 高齢者の難治性がんの早期診断と有効な治療法に関する研究

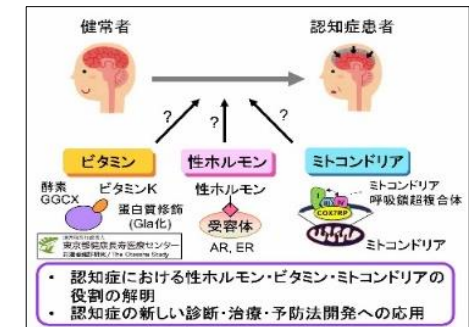
- ・ プロテオーム解析で発見した、膵がん細胞が腫瘍を形成するのに必要なタンパク質を減らすことによる **がんの進行の抑制効果について検討する** (図1)

○ フレイルや認知症などの高齢者疾患の発症機構の解析

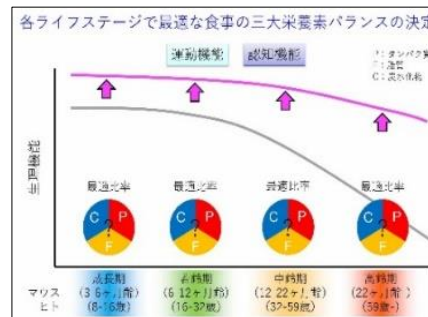
- ・ 健康長寿・認知症・フレイルなどにおける性ホルモン・ビタミンシグナル並びにミトコンドリア呼吸鎖超複合体の役割を解明し、それらに対する **新規診断・治療・予防法開発への応用を進める** (図2)
- ・ 各ライフステージにおける **運動機能や認知機能に適した食事のタンパク質摂取比率を決定する** (図3)
- ・ 認知症音楽療法の基礎となる音楽の脳機能への **作用・メカニズムを解明する** (図4)
- ・ 交感神経による **筋力調節と動脈系の調節との関係を明らかにする** (図5)



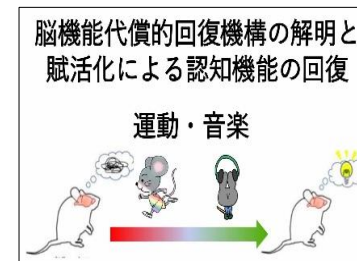
【図1】



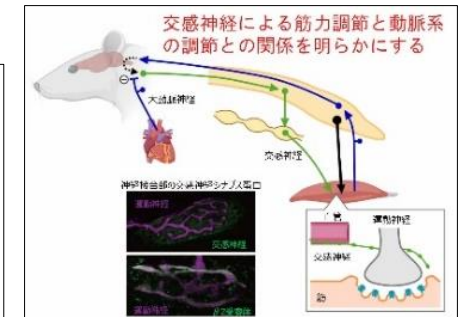
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

①ー2 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

◆高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究ー2

- ・アルツハイマー病の病態解明に向けて、APP(アミロイド前駆体タンパク質)など関連分子の糖鎖修飾を変化させて**代謝への影響とそのメカニズムを解析する**(図6)

○サルコペニア、フレイル等老年症候群の克服に向けた研究

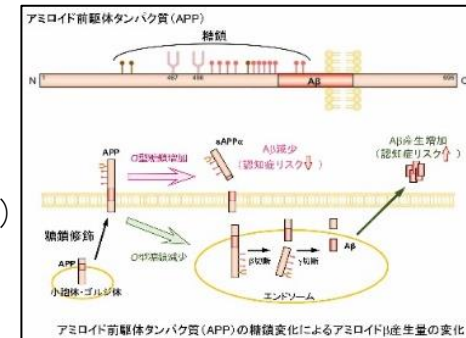
- ・運動機能低下などの早期診断バイオマーカー候補糖ペプチド探索のため、質量分析装置による**プロテオーム解析及びグライコミクス・グライコプロテオミクス解析を実施する**(図7)

○様々な筋脆弱症に対する新たな予防・再生治療戦略の創生

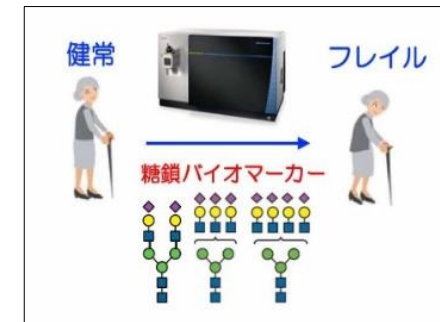
- ・骨格筋幹細胞に着目し、筋再生医療開発に繋がる**筋再生メカニズムを解明する**(図8)

○認知症の早期診断と発症予測及び病態評価に関する研究

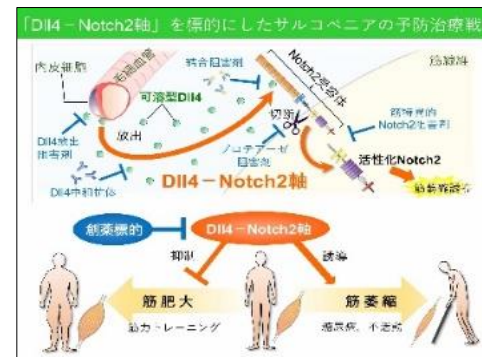
- ・センターの各部門と共同で、PETバイオマーカーを各種バイオマーカーと横断的かつ縦断的に解析し、認知症の病態を解明する
- ・タウPETの臨床使用に向けて、定性および定量測定の意義を検証し、**タウPET評価法を標準化するとともに普及を図る**(図9)
- ・生前採取体液(髄液・血清・血漿)と、最終病理所見との実証研究を用いた認知症バイオマーカー研究を、脳神経内科と共同で行う



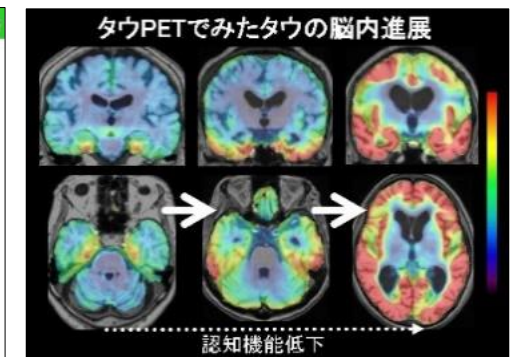
【図6】



【図7】



【図8】



【図9】

①—3 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

◆高齢者の地域での生活を支える研究—1

○ 社会参加・社会貢献とそれを支えるフレイル・認知症の一次予防の推進、社会関係の構築及び社会環境の整備に資する基盤的・応用的研究

- ・ 高齢期における社会参加・社会貢献の促進を目的とした**世代間交流型・生涯学習型健康増進プログラム**の展開・介入効果の機序を解明する(図1)
- ・ **健康無関心層や社会的弱者**など、これまで働きかけが難しかった対象層へのアプローチ方法について検討し、提言を行う(図2)
- ・ 社会的**孤立・困窮予防プログラム**の開発と実装化に向けた基盤・応用研究について、中年期から前期高齢期までを主な対象として実施する(図3)



健康無関心層の行動変容を促す要因は何か？ 【図1】

○ フレイルや認知症の進行機序を踏まえた早期スクリーニング、重症化予防に資する研究や、日常生活に不具合があっても希望と尊厳をもって暮らせる社会の創出に向けた研究

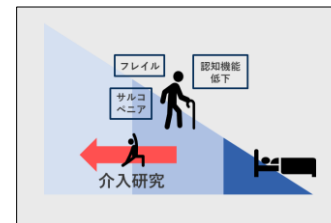
- ・ 二次予防の観点から、フレイルやサルコペニア、認知機能低下の改善を目指した会場型及び遠隔型の**介入プログラムの効果を検証**する(図4)
- ・ 認知症フレンドリー社会の実現を目指す地域拠点の活動モデルを示し、認知症高齢者や一般住民を対象に、その効果を多角的に評価する(図5)
- ・ 高齢者の**口腔及び栄養評価法の確立**のための基盤データの収集、**小型IoTデバイス×AI**を活用した食事摂取状況把握、認知症の人への円滑な歯科治療提供体制整備を目指す研究を行う(図6)



【図2】



【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

①—4 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

◆高齢者の地域での生活を支える研究—2

○ 地域コホート研究やレセプトの分析、IoTの活用などを通じた、対処行動、社会的包摂、医療・介護システムに関する研究開発

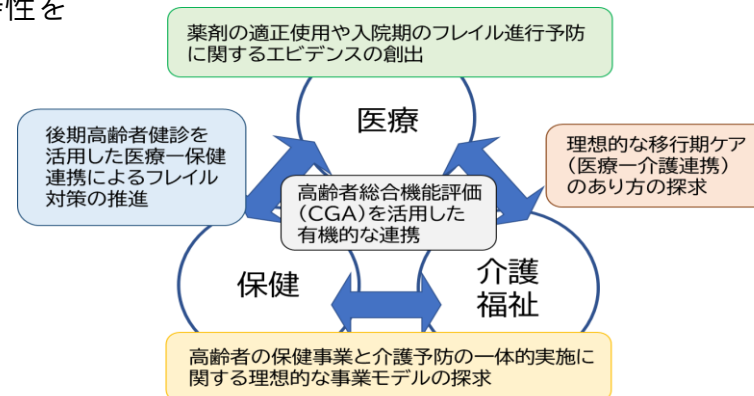
- ・ 地域高齢者に対し、ウェアラブルウォッチによる日常生活の記録を行い、フレイル、認知機能との関係を明らかにし、**区市町村での実装を支援**する(図7)



【図7】

- ・ 地域単位で収集された**レセプト・健診データ**や**長期縦断研究データ**を分析し、高齢者の特性を踏まえた**保健・医療・介護システム構築**に資する研究に取り組む(図8)

- ・ 地域コホート研究等を通じ、複雑困難な状況にある高齢者が包摂される社会の実現のために必要な**高齢者地域支援体制**に関する研究を行う(図9)



公的データベース等を用いて高齢者の特性をふまえた
保健・医療・介護システムの構築に資するエビデンスを創出

【図8】



【図9】

①—5 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

◆老年学研究におけるリーダーシップの発揮

(IRIDE, フレイル予防センター, スマートウォッチ事業の取組は別ページ参照)

- ・医療と研究の一体化というメリットを生かし、受託・共同研究、競争的研究資金など、外部研究資金の積極的な獲得に努めるとともに、成果の実用化や臨床応用の推進、知的財産の活用を図る

■令和7年度目標値

科研費新規採択率 33.0% (上位30機関以内)

科研費新規採択件数 30件

- ・国内外の老年学関連学会において引き続き中心的な役割を果たすとともに、**老年学研究におけるリーダーシップを発揮**していく。
- ・第34回日本老年学会総会や第13回TOBIRA研究交流フォーラムにおいて、当センターの研究成果を積極的に情報発信することにより、企業や研究機関等との強固なネットワークを構築し、共同・受託研究等への橋渡しや研究成果の実用化に繋げる

■令和7年度目標値

TOBIRA研究発表数 (講演、ポスター発表) 10件

論文発表数 680件

(うち英文での論文発表数 480件)

学会発表数1,300件



【第12回 TOBIRA研究交流フォーラムの様子】



【日本老年学会総会
(令和7年6月開催予定)】

- ・センター内において、引き続きセミナーや研修など自己啓発の機会を提供するとともに、国内外からも研究員や留学生等の受け入れを行い、老年学研究においてリーダーシップを発揮する人材の育成を図る
- ・IRIDEでスタートしたTOKYOメディカルバイオバンクにおいて、血液・DNA等の生体試料を適切に保管し、外部提供を含め、有効に利活用するため、**バイオバンクの機能や整備のあり方について検討を加速**させる

①—6 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

◆研究成果の社会への還元

- ・ **産学連携の積極的な推進**による新規共同研究の受入れや、保有特許の定期的な見直しを行うなど、**研究者への包括的な支援を推進**
- ・ ホームページにおいて、最新のがんバイオマーカーや医薬組成物を中心とする研究シーズの定期発信や、BioJapan等のビジネスマッチングイベントへの出展により、**積極的な特許ライセンス活動**を展開し、新規共同研究や大型プロジェクトに繋げていく。

■令和7年度目標値

特許出願件数 13件

転載・引用許可申請への対応件数 65件

- ・ 臨床と研究の両分野が連携できるメリットを生かし、オンデマンド配信も活用しながら「東京都健康長寿医療センター老年学・老年医学公開講座」などを実施する。また、行政が実施する講演会等への講師派遣、取材及びプレス発表等のパブリシティを通じて、**研究成果の積極的な発信**を行う。

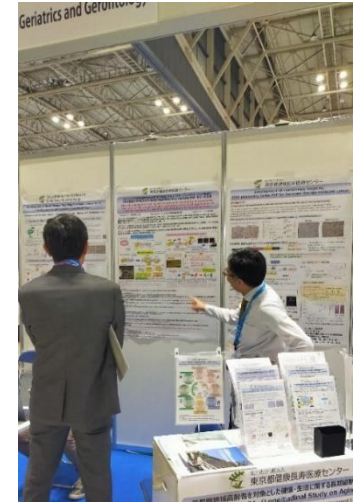
■令和7年度目標値

YouTube再生回数 18,000回/月

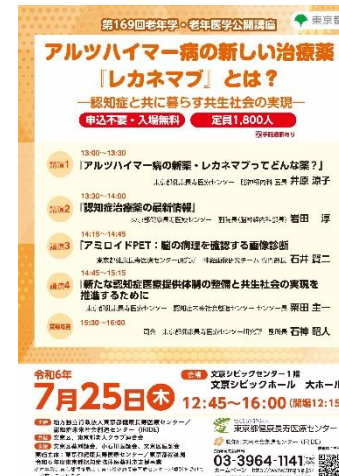
X (旧:Twitter) フォロワー数 2,200人 (年度末)

HPアクセス件数 30万件/月

老年学・老年医学公開講座 4回



【BioJapan
(令和6年10月15日開催)】



【第169回老年学・老年医学公開講座
(令和6年7月25日開催)】



② 法人の資源を活用した政策課題への対応

病院、研究所で培った知見、ノウハウを活かす認知症支援の推進に向けた取組やフレイルの予防・早期発見及び健康の維持・増進に向けた取組等の充実を図る

◆介護予防・フレイル予防の取組

- ✓区市町村・地域包括支援センター職員、医療福祉専門職等に対する各種研修（25回）
- ✓通いの場等による介護予防・フレイル予防に取り組む職員等に対する相談支援（300件）
- ✓PDCAサイクルに基づいた、通いの場の推進のために開発した「通いの場評価シート」を用いた評価支援（3自治体）
- ✓通いの場への予防プログラム「ちょい足しプログラム」

（8自治体（内、島しょ部3自治体））



【自治体職員等への相談支援の様子】



【地域への「ちょい足し研修」の案内】

⇒ これらの取組により、**区市町村における介護予防事業を推進**

- ・ **東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター事業や介護予防（主任）運動指導員養成事業**の取組により、センターが有する介護予防・フレイル予防のノウハウの普及と人材育成を促進
- ・ **フレイル予防センターの取組は別ページ参照**

◆認知症との共生・予防の取組

- ・ 認知症支援推進センターにおいて以下の取組を実施し、**認知症高齢者を地域で支える体制を構築**
- ・ **認知症抗体医薬による治療体制の整備**を図るため、医療機関等への相談窓口の設置、認知症疾患医療センター職員を対象とした研修を実施するとともに、都民への普及啓発のための講演会等を開催

認知症サポート医フォローアップ研修	4回
認知症疾患医療センター職員研修	2回
認知症地域対応力向上研修	3回
島しょ地域の認知症対応力向上研修	4回
認知症抗体医薬対応支援事業疾患センター職員研修	2回



【認知症サポート医フォローアップ研修】

- ・ **認知症未来社会創造センター（IRIDE）の取組は別ページ参照**

① 認知症未来社会創造センター(IRIDE)

センターのこれまでの認知症研究の成果を活かし、共生社会の実現を推進するため、東京都認知症施策推進計画を下支えする研究を積極的に展開

◆共生社会の実現に向けた取組

- ・高島平団地における認知症支援のための常設型地域拠点の成果に基づき、**共生社会の実現に向けた取組**を区市町村へ波及させるためのマニュアルを作成
- ・健常期から認知症期まで継続可能なプログラム（絵本読み聞かせ等）や、高齢者による若年世代への共生を啓発する読み聞かせプログラムを開発

◆統合コホートを活用した認知機能低下抑制研究

- ・地域コホートビッグデータ及び関連する認知機能研究の解析から、**認知機能低下の防御因子に着目した認知レジリエンス研究を実施**

◆認知症検査・早期診断に資する取組

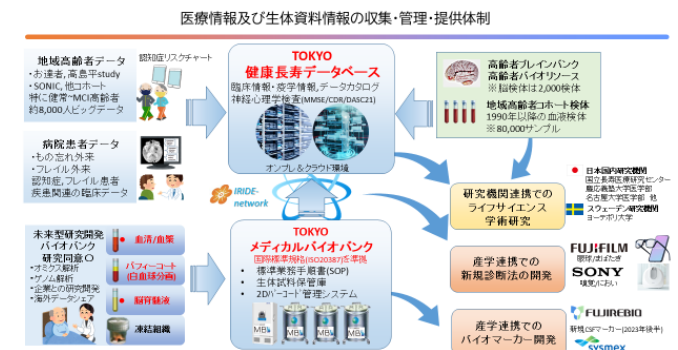
- ・簡易・低コスト・低侵襲で実施できる認知症検査手法として、血液から脳内の原因物質を検出できるバイオマーカーを開発
- ・ドナネマブ投与による脳内の原因物質の除去状況の読影を支援できるツールを開発し、**ドナネマブのモニタリング**（投与継続・中止の判断）に活用

◆TOKYO健康長寿DBの運用

- ・認知症研究のプラットフォームとして構築した「TOKYO健康長寿DB」を適切に運用し、センターが臨床や研究を通じて蓄積してきた膨大なビッグデータを、共同研究や外部提供により**認知症の新規治療・創薬等研究の基盤**として活用



【高島平での取組】

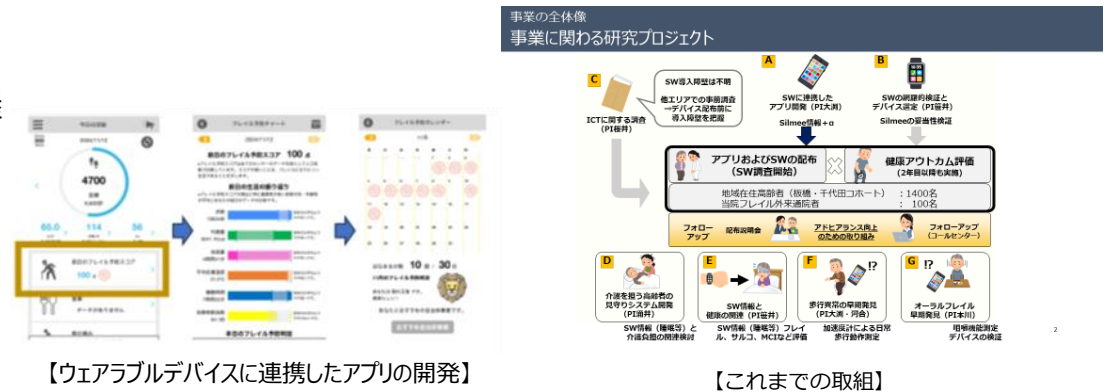


【健康長寿DB】

② アプリを活用した高齢者の健康づくり推進事業(仮称)

事業概要

- ・センターの知見を活かして開発した、健康状態の把握やフレイルリスクを検知できるアプリを用いて、高齢者の行動変容を促し、健康を増進
- ・スマートウォッチ利用者から届いたデータを分析し、区市町村へフィードバック
- ・**アプリ改良等の研究を推進**し、デジタルコホート研究基盤を構築するための要素技術の開発を実施



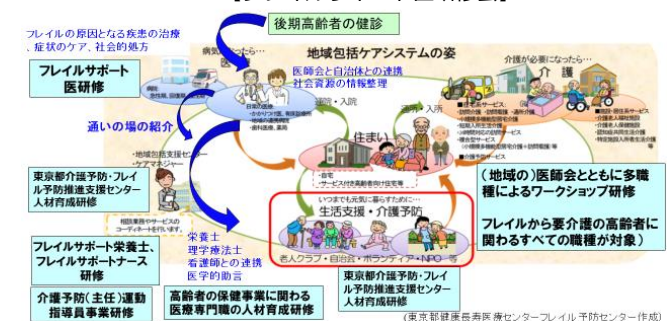
③ フレイル予防センター

事業概要

- 東京都医師会、板橋区などの自治体、多職種団体と連携し、**フレイルに対する包括的対策を推進**
- ・ 東京都医師会等と連携し、フレイルサポート医研修会を開催
- ・ 東京都栄養士会と連携し、フレイルサポート栄養士の育成研修を実施
- ・ 女子栄養大学と連携し、フレイル予防を担う専門の栄養士のリーダーであるアドバンスコースの研修会を開催
- ・ フレイルサポートナース養成研修を実施し、フレイル・プレフレイルが疑われる患者を介護予防サロン等へつなげる看護師を養成
- ・ 「電子カルテによるフレイル評価」の入院患者の実施数を増やし、退院支援やケアプラン作成における活用法について研究を推進



【フレイルサポート医研修会】



■ 令和7年度目標値
電子カルテによるフレイル評価 年間2,000人

① 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成

○ **健康長寿医療研修センター**が中心となり、医療・介護人材の育成に向け組織的かつ効率的に対応を支援

- ・ 国内外の医療機関・研究機関等からの積極的な**視察の受入**を推進する（令和6年度(～12月)受入実績：国外10団体）
- ・ 学生見学や学生講義等を行い、**研修医の確保・育成**を積極的に進めるとともに、他の医療機関や研修関連施設と連携し、**高齢者医療や老年医学の質の高い研修教育**を行う
- ・ 看護基礎教育機関、日本看護協会、地域医療機関等へ研修講師として看護師を派遣し、**高齢者医療・看護に関する専門知識の実践的スキルの普及**を図り、次世代の医療人材育成や地域における高齢者医療の質向上に寄与する
- ・ 国の働き方改革の方針を踏まえ、医師の負担軽減を図るため、医師の採用を積極的に進めるとともに、**多職種によるタスクシフト/シェア**を一層推進する

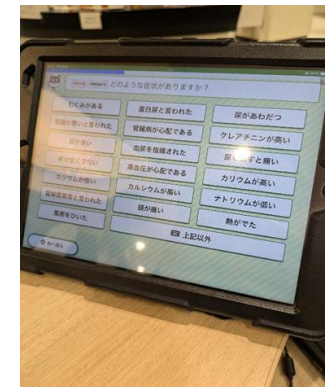
②-1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

◆地方独立行政法人の特性を生かした業務の改善・効率化

○ 効率的かつ効果的な業務運営を推進するため、法人の意思決定機関である理事会や、病院部門と研究部門の一体的運営を目指して設置されたセンター運営会議等で迅速かつ十分な議論を行うとともに、各事業に係る体制等の見直しを図り、**都民ニーズや社会情勢の変化に対応した効率的・効果的な業務の推進**を図る

○ DXの積極的な推進による業務の効率化の推進

- ・ **AI問診等を活用し、医師、看護師、DC（ドクターズクラーク）の業務負担を軽減**し、より専門的な業務に集中できる環境作りを推進
- ・ **RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）による業務負担軽減**を引き続き図るとともに、事務部以外への活用についても検討
- ・ 業務メールについて、利便性の向上を図るため、クラウド版への更改を検討
- ・ 患者向けサービスと合わせて、センター全体のWiFi環境を整備

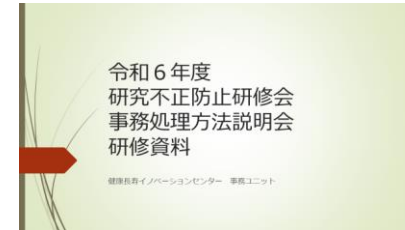


【AI問診】

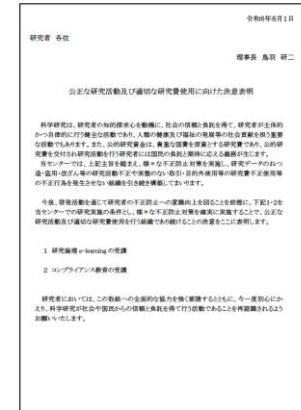
②-2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

◆適切な法人運営を行うための体制の強化

- 全職員を対象としたコンプライアンス研修の実施、コンプライアンス推進月間、ハラスメント防止月間を活用して、センター職員のコンプライアンス（法令遵守）を徹底する。コンプライアンス研修については、e-ラーニング等を活用して、**対象者全員が受講できる環境を整備するとともに、毎年度の悉皆研修**とする
- 研究活動が適切に実施されるよう、研究費使用に係るマニュアル作成、啓発活動、監事との連携強化、モニタリング及びリスクアプローチ監査等による課題の把握・検証等を行い、**研究費の不正使用を防止**する。
また、研究不正防止研修会や研究倫理教育（e-ラーニング）を実施し、**不正防止に対する意識の浸透とルールの徹底**を図る。



【研究不正防止研修会】



【公正な研究活動及び適切な研究費使用に向けた理事長の決意表明】

③ 財務内容の改善に関する事項

◆収入の確保とコスト管理の一層の強化

- ポストコロナに当たり、**断らない救急の推進や特色ある医療の発信を通じた患者獲得、新たな施設基準の取得等**により、積極的に医業収益を確保するとともに、物価高騰に適切に対応しつつ、**可能な限り費用の削減を行い、経営基盤の安定化に努める**
 - ・地域の医療機関との連携・提携の強化、救急患者の積極的な受入れなどにより、新規患者の確保、新入院患者の受入れ増加に努める
 - ・患者の快適な療養環境を提供するため、有料個室の有効活用を推進する
 - ・「未収金管理要綱」に基づき、未収金の発生防止に努めるとともに、発生した未収金については出張回収や督促などを速やかに行い、早期回収に努める
 - ・医療と研究の一体化というメリットを生かし、受託・共同研究、競争的研究資金など、**外部研究資金の積極的な獲得**に努めるとともに、成果の実用化や臨床応用の推進、知的財産の活用を図る
 - ・新たに締結する放射線機器の保守については、コスト・効率化の両面から精査し**包括契約**を実施する
- 病床稼働率80%以上達成を目指して「稼働率80プロジェクト」を継続し、病院部門全体の取組と、診療科ごとの特色を生かした取組とを連携させ、車の両輪として取組む。また、各科の先駆的取組を病院幹部会で報告し、病院部門全体で共有

④ 法人運営におけるリスク管理の強化

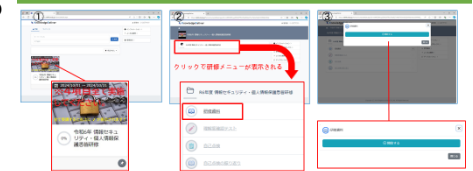
- 全職員を対象としたe-ラーニングによる**情報セキュリティ及び個人情報保護研修**を実施するとともに、情報セキュリティにかかわる注意喚起を定期的の実施することで、情報セキュリティに対する職員の意識向上を図り、事故を未然に防止

■令和7年度目標値

情報セキュリティ及び個人情報保護研修参加率 100%

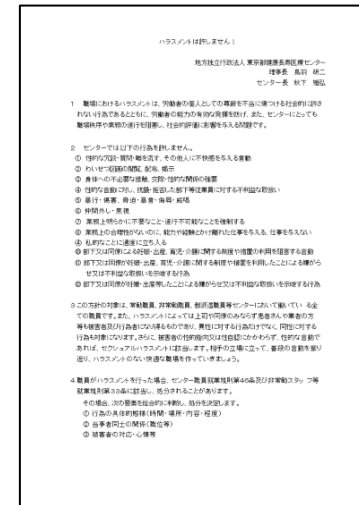
- 「ハラスメントの防止に関する要綱」に基づき、パワーハラスメント、セクシュアルハラスメントや妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントを防止するための体制を整備し、ハラスメント相談窓口を職員に周知するとともに、内部通報制度を適切に運用し、**職員が働きやすい健全かつ安全な職場環境を整備**する。また、ハラスメントはあってはならないものである旨のメッセージを定期的に周知
- 働き方改革の推進のため、年次有給休暇の取得促進や超過勤務時間の管理を定期的に適切に行うとともに、健康診断の受診促進やストレスチェック、**メンタルヘルス研修（ラインケア・セルフケア）等**の充実を図り、安全衛生委員会を中心に快適で安全な職場環境を整備
- 災害時の事業継続能力を高めるため、BCP（事業継続計画）に基づき**安否確認システム**への登録を促進するとともに、システムを活用して安否状況や非常参集の可否の確認を行うなど、実践的な訓練を実施

(1) 研修資料閲覧による学習方法（事務系端末・電子カルテ端末共通）



- ① 研修ホーム画面上に表示される、研修アイコンをクリックする。
- ② 受講する項目から**研修資料**をクリックする。
- ③ 「開始する」ボタンをクリックし、研修資料による学習を開始する。

【eラーニングによる「情報セキュリティ及び個人情報保護研修」】



【「ハラスメントは許しません！」
理事長メッセージ】